

人権だより

No.291(2022.5)

学校生活を送れる幸せ

国語科 大橋 文子

令和4年度が始まり、1か月が経ちました。新学年のいいスタートは切れましたか？中には、学校へ行くのが面倒くさい、勉強なんか嫌いだ、と思っている人がいるかもしれません。今回は、私の祖父母の若い頃の話をしてしたいと思います。

母方の祖父は、漢文学が大好きな少年でした。将来は漢学者になるか、教師になって若い世代に漢文の素晴らしさを教えたいという夢がありました。しかし、祖父の少年時代は戦争が激化し、いよいよ学徒動員が始まるという時でした。祖父は師範学校(戦前の教師を養成するための学校)への進学を考えていましたが、家族から「文系の学校なんかに行ったら、兵隊にとられてしまう。工業の学校へ行きなさい。」と反対され、夢を諦めざるを得ませんでした。家族の言うとおりに進学した祖父は、兵隊になることなく戦渦から生き延びました。そして、戦後は電力会社へ就職し、高度経済成長期を支える一員となりました。母は幼い頃から、祖父が話す故事成語の由来や中国の有名な古典文学の一節を聞きながら、育ってきたそうです。初孫だった私の誕生を喜び、とてもかわいがってくれた祖父でしたが、私が漢文のことを理解し始める頃には認知症が始まり、ほとんど話ができなくなっていました。そして祖父は、私が大学生の時に亡くなりました。私が今、生徒に漢文を教える立場になっていることを知らないままです。



父方の祖母は、小学生の頃、活発で学業優秀な児童でした。担任の先生から、「あなたはとても優秀だ、ぜひとも高等女学校(当時、小学校卒業後に女子が進学する学校)へ進学すると良い。進学を望むなら推薦するよ。」と声をかけてもらいました。祖母はとても喜び、前向きな気持ちで進学したい、もっと勉強がしたいと考えました。しかし、裕福ではない農家の出身だったため、「長男ならともかく、五女のあなたを進学させる余裕はない。」と言われ、小学校卒業後に進学することは叶いませんでした。このとき祖母は「自分に将来子どもや孫ができて、進学することを望んだら、必ず

進学させてやろう。」と決意したそうです。祖母は決意した通り、日常生活で節約して苦勞しながら、子どもである父も、孫である私も、大学まで進学させました。私が大学まで進学することが出来たのは、祖母の援助があったからです。

現在、コロナ禍もあり、思い通りの学校生活を送れていない人もいます。しかし、学びたいことを学んだり、友人たちと楽しい青春を送ったりする権利すら無かった若者が、百年も経たない程度の過去に存在したのです。現在でも、学ぶ権利が保障されていなかったり、環境が不十分だったりする若者が存在します。私は、みなさんが充実した学校生活を送る様子を見守ることができて、とても幸せです。どうか、一度しかない学校生活を大切にしてください。

【人権委員の声】

私が今、こうして学校に行けているのは、苦勞して働いてくれているいたり、いろいろな人の支えがあってこそこの生活だと実感しました。これからも普通の生活が当たり前ではないということを忘れずに、感謝の気持ちを持って過ごしていきたいと思いました。(1年 中川実優)

自分たちが当たり前のようにしていることが、当たり前ではないということが今でもあるのだと改めて思い、勉強ができていことに感謝しようと思いました。(2年 池田萌花)

学校生活を送ることは、勉強することだけでなく、いろいろな人とのつながりを通じて様々なことを学ぶことができます。この人生に一度しかない学校生活を大切に、様々なことを学んでいきたいです。(3年 田村啓明)

日々を「当たり前」と感じるができるのは、とてもありがたいことだと改めて感じた。コロナ禍で思うように生活ができないことが多いが、自分の夢に向かって努力することができる環境に生きているということに感謝しなければと思った。(4年 木田和香奈)

現在、コロナ禍ではあるけれど、普通に学校生活を送ることができていることに感謝したいと思った。今しかできない学校生活での経験の一つ一つを大切にしながら、日々を送りたいと思った。(5年 東晴七)

戦死者数イコール戦争被害の規模と考えがちですが、戦地から帰ってきて亡くなった人や、若者の戦争ゆえの挫折を考えると、戦争によって莫大な被害者を出すのだなと思いました。今の自分が置かれている環境に感謝するだけでなく、行動で示していきたいです。(6年 岡田若子)

人権教育相談部より

職員室の入口にある掲示板に「人権教育部コーナー」があるのを知っていますか？職員室を訪ねてきた皆さんが、先生を待たったりするちょっとした時間にも読んでもらいたいという思いから、主に新聞記事を掲示しています。いろいろな記事を読んで、いろいろな人の考えに触れることで、自分の考え方や価値観を見直し、人権感覚を磨ききっかけにしてください。